

「結婚」って 何のためにするの？



うわぁ~~~~~!!!
この美男美女の新郎新婦、誰ですか~~~~~!!!! (笑)

おかげさまで太田東西夫婦、今年で結婚27年となります。
新郎25才、新婦24才。早々の結婚でございました。

数え切れないほどの夫婦ゲンカもしてきましたが、太田東西薬局が今年で
20年を迎えられるのも、『夫婦円満』の努力があったからだと思います。

ところで、子どもから「結婚って何のためにするの？」と尋ねられたら
親としてどう答えますか？

今、結婚しない若者が増えています。

「うちの息子（娘）がなかなか結婚しません、尋ねると怪訝な顔をして怒るので結婚の話はしないようにしています」

といった親御さんの声をよく耳にします。

「早く結婚したら？」「相手はいないの？」「もう、いい年なんだから！」
そうストレートに言うから、子どもに嫌われるのです。

その前に、もっともっと

「この子はどうして結婚しないのか？」「どうして結婚願望がないのか？」
原因を深く掘り下げてみることです。

ところで、既婚のみなさんは

振り返ってみて、「この人と結婚してよかった～！」と今の配偶者を肯定し
今の自分の人生を肯定できますか？

「お母さんはお父さんと出会い、結婚して、あなたが生まれて、家族となって
ほんとうに幸せな人生だと思っているわ～」

そう、子どもに偽らず、恥ずかしがらず表明できますか？

子どもから「結婚って何？」と訊かれて、「男と女が会って、愛し合っ
ていっしょに生活を営んでいくことよ～」と文章化して伝えるのではなく
その答えは、結婚生活を営んでいる親が、自分たちの生き方で子どもに
示していくものでしょう。

「結婚なんて妥協とガマンだけよ」「お父さんみたいな男と結婚して不幸だわ」
「もっと違う人と結婚していたら、私の人生も違っただろうに・・・」
もし、子どもにそうしたネガティブ発言を続けていたら、子どもの頭に
『結婚 = 不幸不自由』という方程式を刷り込むことになります。

親が夫婦ゲンカばかりして、笑顔や喜びのない家庭で育った子どもが
大人になって結婚しない理由が

「子どもに自分みたいな苦しい経験をさせたくないから、自分は結婚しない」
そこまで考えている未婚者もいます。

自分たちの夫婦仲が悪いくせに、それを子どもに「早く結婚しなさいよ！」
と言う親は、体裁や世間体にとらわれて、結婚の意味や価値、その喜びを
子どもに伝えていません（正しくは、伝えることができない）。

結婚に限らず、誰でも楽しいことはしたい。嫌なことはしたくないものです。

他にも子どものことで悩んでいるご家庭の問題は、まだあります。

「親が子どもを手放していない」

「親が子どもに過保護過ぎ」

「親が子どもに支配的」

子どもが成人して社会人になっても、一つ屋根の下、親子で暮らすということは危険だと私は思います。

しかもその時、世話好きな母親だった場合、なおさらです。

食事、洗濯、掃除、光熱費の支払いなど、親が子どもの肩代わりをしている場合、子どもはとっても“楽ちん”です。身の回りのことは全部親がやってくれる。だから仕事だけに専念できる。収入も休日も、自分の好きなことだけに使える。そうして子どもの結婚願望が失せていきます。

元来、そんな母子関係を断ち切るのが父親の役目なのですが、影の薄い、マイペースお父さんは無関心です。子どもの将来を真剣に考え、子どもの結婚を真剣に願うなら“家から追い出す”姿勢が親のほうに求められます。

寂しいからと、いつまでも子どもを囲ってはいけません。

ところで、

結婚式の披露宴で、ウエディングケーキ入刀がありますね。

由来は所説いろいろあるようですが、新郎新婦2人でケーキを切り分けることで

「喜びは2倍にしていこう！」

「苦難は半分にしていこう！」

そうした意味合いがあるそうです。

ただ、日本では“切る”という表現が、結婚式では縁起が悪いということで切り分けずに“入刀”だけで終わるそうですが、本来はしっかり“2等分”する。

ケーキ的に

結婚とは

待ち受ける苦難は

2人で協力して乗り越える！

喜びや達成感

2人で倍増して味わう！

そのためにあるんですね！ \ (^o^)



きゃ~~~~この写真も、ヤバイ・・・汗

今の若者は、寂しさとか、退屈さとか、孤独を感じる機会が少ないでしょうね。インターネットやSNSですぐに誰かと繋がる。コンビニ弁当やファミレスで食べることに困らない。男の性欲の処理も、媒体がたくさんあって困らない。買いたい物、経験したい事、山ほどある。もっと自分にお金と時間を使いたい。結婚願望がわからない若者が増えているのは、時代の問題もありますね……

人それぞれ、いろんな生き方があっていいとは思いますが。
しかし、結婚したほうがいいのか？しないほうがいいのか？と訊かれたら
「したほうがいいですよ！」と太田東西は答えます。

「自分や家族の“新陳代謝”のために！」です。

『家族水入らず』という言葉がありますが、『水入らず』とは『油』を示すそうで油という家族の中に、水という他人が入り込めない状況をいいます。通常、「家族水入らずでゆっくりお過ごしください」など良い印象を受けますが裏返せば、『水入らず』は『排他的保守的』とも言えます。

「我が家の家訓は～」「我が家の田畑や墓を守るためには～」「～すべし！」
そうした意向に反する者は、家族とは認めないという考え方。
まるでトランプ氏のようなですね！（笑）

また、芸能人などの離婚でよく耳にする言葉が
「価値観が合わなかったから」「考え方・生き方が違っていたから」

働かない、DV、不倫していたなど、余程の配偶者なら別れたほうが賢明ですが育ってきた環境や仕事の内容や立場も違う。そもそも男と女がいっしょになる。価値観や考え方がピッタリ一致するなんて、あり得ないことです。

「あなたは間違っている！」ではなく、「なるほど、そういう考え方もあるのか？」
相手に歩み寄る姿勢。自分の思考の範囲を、より広げていこうとする姿勢。

それが**人として柔軟になり、^{ふところ}懐 広く寛容になっていく**ということでしょう。

夫婦ゲンカばかりしている夫婦は、国同士が戦争ばかりしていることと何ら変わりありません。「自分が正しい、相手が間違っている」という頑固な態度。

**結婚とは、水と油が混ざり合っていくこと。混ざり合う努力をしていくこと。
「相手の立場になって考える」という界面活性剤（思いやり）なしには
いつまでも分離したままで、『結婚＝新陳代謝』という意も解せないでしょう。**